

鬼北町立広見中学校

道徳通信

NO. 35

令和7年12月3日発行

よりよく生きる

中間発表会 1年1・5組の授業「肝心のバスガイド」

資料のあらすじ

主人公・崎原真弓さんは、高校卒業後にバスガイドになるが、悩んだ末に沖縄を出る。沖縄を離れたことでふるさとへの愛情に火が付き、ふるさとについて学び直す。沖縄の文化や歴史と真摯に向き合い、ふるさとに対する誇りもつらい思いも含めて、心を込めて真っすぐに伝えようと決意する。現在は、沖縄でバスガイドとして沖縄の歴史と心を伝え続けている。



崎原さんは、ふるさとに対する誇りだけでなく、つらい経験も含めて、心を込めて真っすぐに伝えようと思ったのだろう。

- ・つらいことがあったからこそ、今の沖縄があることを知ってもらいたい。
- ・つらい経験も含めて、それが沖縄の魅力であること知ってもらいたい。
- ・今後、戦争のようなつらいことが二度と起きないようにしてほしいという思い。

崎原さんは、「皆さんがふるさとに思いをはせることに役立てたら、これほどうれしいことはない」と言っているが、それはなぜだろう。

- ・自分たちのふるさとの魅力を知ってほしいし、大切にしてほしい。
- ・自分のふるさとのよいところを、みんなも広めてほしい。
- ・自分のふるさとの魅力を考えてほしい。 ・ふるさとへの感謝の気持ちが大きくなる。
- ・社会をよりよくしていこうという気持ちを、みんなで受け継いでいきたい。

今日の学習を通して、ふるさとへの思いを書きましょう。

- ・私たちが今できることは、自分達のふるさとに感謝し、大切にしていくと同時に、ふるさとへの恩返しをすることだと思います。いつも当たり前のようにご飯を作ってくれる親や、便利な物を作ってくださった先人達、そして自然豊かな大地。そんな鬼北町に感謝すると同時に、将来このふるさとに恩返しができたらよいと思います。
- ・私は、鬼北町が大好きだし、誇りに思っているけど、今回の授業でもっと鬼北町のよさについて自分で考えることができた。今の鬼北町だけでなく、昔の鬼北町のこと（歴史）も学んで、より鬼北町を好きになっていきたい。

【授業者（福鹿巴音先生）より】

「肝心のバスガイド」の授業では、みんながふるさとを大切にするすることで、争いごとが少なくなったり、ふるさとをよりよくしていこうという気持ちが受け継がれたりしていくということに気付くことができました。私も皆さんと同じように、鬼北町がふるさとです。この授業でたくさん出てきた1ー1のみんなの意見を聞いて、私もふるさとのことを皆さんと一緒に学び続け、ふるさとへの恩返しをしていきたいという気持ちが強くなりました！！